立命館大学
化学科同窓会ニュース
═ 第3号 ═
編集：立命館大学化学科同窓会事務局
編集責任者：岩　橋　　清
〒603 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学化学科内
TEL 075-463-1131
(内3645)

定年退職を迎えて

杉田嘉一郎
(立命館大学名誉教授)

京の街にはいま祇園囃子の音色が流れて、盛夏の候です。同窓の皆々様お元気で御活躍のこととお慶び申し上げます。

さて私、この度定年退職を迎えました。昭和二十一年十月から六十年三月まで、三十八年六ヶ月の年月を立命館学園（専門学校・大学）に奉職したことになります。その間、学園の教員・職員そして卒業生の皆様方の温い御援助のお蔭で、小過・中過は数多くありましたが、一応大過なく勤務することが出来てホッとしているところです。

敗戦によって壊滅的な打撃を受けた二十年代の日本の社会状況からは経済大国といわれる現在の繁栄は夢にも考えられなかったことです。黒いダイヤと呼ばれた石炭の増産から化学工業の復興が始まり、三十年代に石油化学導入というチャンスを生かして、いわゆる高度経済成長期に入りました。四十年代は、チャンスのあとにはピンチありで、環境汚染、オイルショックというピンチもありましたが、日本人の智的能力・勤勉努力で切り抜けました。五十年代には、ファインケミカル、C_1化学、バイオケミカルと質的転換を指向して新たなチャンスが到来して来ていると思います。

私個人にとっても、在職中のいろいろな想い出が浮んできます。つらかったのは四十四年から四十八年にかけてのいわゆる、大学紛争当時の理工学部長時代の苦悩と、教学担当常務理事時代の多忙さでした。一方、楽しかったのは、立命館大学野球部が十数年振りに五十二年関西六大学の春季リーグ戦で優勝、大学選手権大会に出場して神宮の杜にこだまする校歌「赤き血潮」応援歌「グレータ立命」の斉唱を耳にして、感激した野球部部長時代です。野球といえば、今はなき衣笠球場で対早大オープン戦での吉田（現阪神監督）と広岡（現西武監督）の華麗なショートの守備振りが目のあたりに浮んできます。

五十五年から三年間の図書館長時代の苦楽も今は懐しいひとコマです。

最後に、吉田巌会長、津田和夫・岡本勇三副会長を中心に化学科同窓会のますますの発展と同窓の皆様方の御健康を心からお祈りしております。

▲昭和60年立命館土曜講座で講演

▲昭和36年頃
化学科教員とともに

◀昭和57年、天野和夫総長、福井謙一京都工芸繊維大学長（1981年度ノーベル化学賞受賞）とともに

略歴　昭和二十年京都大学工学部工業化学科卒業。昭和二一年立命館専門学校講師。三七年立命館大学教授。理工学部主事、理工学部長、教学担当常務理事、図書館長、硬式野球部長を歴任された。

杉田嘉一郎先生を送る言葉

恩師杉田先生には、去る三月三十一日をもって母校立命館大学をお元気で定年ご退職されました。

杉田先生が立命館にご奉職になられたのが昭和二十一年十月だと聞き及んでおりますので、実に三十八年六ヶ月に亘たり教鞭をとられた事になります。その間立命館専門学校或いは立命館大学で先生の教えを受けた人は数千名に及ぶのではないかと思います。その数千名の教え子が卒業後社会人となり、各々の職業を通じ、相応に社会の発展に寄与してきた事は申上げるまでもない事であります。大変失礼な事とは思いますが、杉田先生が教師と言う立場から、教学を通じ社会の発展に大きく寄与されたと言って決して過言でないと思います。

尚既にご承知の様に先生は単に教鞭をとられたと言う事だけでなく、立命館学園の常務理事として学園発展の為に大変ご活躍されました。とりわけ学園紛争時には、元総長細野先生の片腕となられ、時には身替わりとして柔和なお顔に似合わず、不退転の決意をもって交渉に当たられ、正常化に一身を投じられた事は余りにもご立派であり、末永く立命館大学の歴史に深く刻み込まれる偉業ではなかろうかと思います。又図書館長として立命館大学の全国的地位を高められ、野球部長として母校野球部を再建されたり数多くの功績も残されました。

その為先生にはご退職と同時に立命館大学名誉教授の称号が授与されました。私どもにとっても誠に喜ばしい限りであります。

唯誠に残念なことは今後先生の研究室で再びお姿を拝見することのできない事でありますが、既に先生の教えを受けた後継の方々が立派に育だたれつつあり、化学科卒業生としては心強く又喜ばしい限りであります。

最後になりましたが、先生長い間本当にご苦労様でした。先生御奥様の末永いご多幸を心から祈念申上げ、先生を送るご挨拶と致します。

（27年卒・永和化成工業㈱・代表取締役社長）

杉田先生には、本年三月三十一日付を以て、定年退職を迎えられ、同四月一日付で本学名誉教授となられました。

先生は、旧制静岡高等学校を経て、京都帝国大学工学部工業化学科を昭和二十年九月に御卒業の後、本学に着任され、以来三十八年半の長期に亘り在職されました。その間、理工学部長をはじめ、教学担当理事、図書館長等々、本学の管理面での要職を歴任されました。

特に彼の大学紛争時には、学部長として、その敏腕をふるわれ、難局を乗り切られたことは、特筆大書すべきことであります。

また、教育と研究面では、有機合成化学研究室を主宰され、数多くの優れた人材を養成し、世に送り出されました。

その上、スポーツマンとしての先生は野球を愛され、野球部長をつとめられて、本学野球部の関六優勝に寄与されたことは、正に錦上花を添うの感がありました。

このように本学の運営並びに教学に多大の貢献をされた先生を、御定年とは云え、送らなければならなくなったことは、化学科にとりましても、甚だ残念なことで、一抹の寂寥感を禁じ得ません。

茲に、先生の多年に亘る御活躍と、御指導に対し、満腔の敬意と謝意を表すると共に、今後益々御元気で、御活躍あらんことを御祈り致します。尚また、我々に対しましても、変らぬ御指導、御鞭撻を賜わりますよう、御願い申し上げ、僭越ながら化学科を代表し、送別の言葉に代えさせて戴きます。

同窓会長　吉田　巖

化学科主任　立花　精

同窓会通信—PART I—

第一回 科学技術セミナー報告

セミナー等運営委員長　竹内良夫

産業革命の時代に生活していた人が、後世歴史上あれほどの変革期にいたという自覚があったかどうかわかりませんが、現在、私達の目の前で、それ以上の変化が急激に起っています。これは、猛スピードでヘアピンカーブを疾走しているようなものです。うっかりしていると遠心力で、はじき飛ばされてしまいます。このような時代には、日日起る情報の把握と解釈が重要な意義をもってくると思います。この意味で皆様が、有意義な情報を有機的に交換できる場として、同窓会の存在の一つの意義があると思います。そのような考えに立って今後有意義な講演会を行いたいと考えております。その活動の一つとして、昨年十二月二日、第一回科学技術セミナーをテーマ、先端技術と伝統工芸とし

一、最近話題のセラミックス
寺井良平氏（35年卒・大阪工業技術試験所・ガラス物性研究室長・工博）

二、京都の染色について
志多野義夫氏（24年卒・繊維技術士）

で実施致しました。今後共、皆様の御指導、御後援をお願いします。以上

杉田先生定年退職記念誌のお知らせ

一年有余の歳月をかけて編集された記念誌が本年九月始めに発行されることになりました。皆さんの中からこの記念誌を望まれる声も伺っておりますのでご案内いたします。

内容はB5判百二十頁程度で学術論文を最小限度にとどめ、卒業生達はもち論のこと、先生が学園の要職を歴任されたことから、元、前両総長を始め化学科以外の先生の懐古談も数多く、戦後の学園の歴史を語る貴重な資料になっています。また、先生の青春時代には時の人中曽根総理らと伊豆へ清遊の写真を始め、学園の昔懐しい写真をふんだんに載せています。限定出版であることから郵送料込みで金三千円也で先着順にお頒けいたしますが、品切の節は悪しからず願います。

申込先

〒601 京都市南区吉祥院池田南町一
永和化成工業㈱内
㈱六九一—五一三一
杉田先生定年退職事業会　宛

科学技術セミナー

最近話題のファインセラミックス

寺井良平

五兆円を予測するファインセラミックス市場

通産省の「ファインセラミックス基本問題懇談会」は、二千年代初めのファインセラミックス市場規模を予測して、五兆円の産業に育つとしている。これは昭和五十八年度のファインセラミックス材料・部品総売上金額六千参百億円をベースに、その伸び率と技術的波及効果を勘案して予測されたものであり、その調査で多くの識者は、ファインセラミックス市場が二千年初めまでに基幹産業を形成するまでに拡大すると答えている。これらの予測は「セラミック・フィーバー」という批判を混えながらも、米国の来日調査団によっても追認されている。

一方、我が国の各種業界が今後五年以内に進出を予定している新分野としては、圧倒的に「新素材」が多い。ハイ・テク時代の新素材には、もちろん様々のものが考えられているが、それらの中で、いわゆる「ファインセラミックス」をあげる企業が非常に多い。

ファインセラミックスとは

一般に従来の陶磁器やれんがなどは、天然原料をそのまま用いることが多く、成形・焼成も手工業的傾向が大変強い。これらを伝統的セラミックスと呼び、ファインセラミックス（ニューセラミックスあるいはアドバンストセラミックス）と区別している。それでファインセラミックスは、人工的に製造された原料（アルミナ、ジルコニア、窒化ケイ素、炭化ケイ素等）を用いて、ラバープレス、ホットプレス、あるいはHIP（熱間静水圧プレス）によって精密成形・焼成したものであり、このように精密にコントロールされた組成や構造によって、優れた機能を付与された無機材料であると定義することができる。

ファインセラミックスの本命セラミックエンジン

ファインセラミックスは現在既に様々の応用が考えられ、製品化されたものもあるが、最も力点のおかれている開発目標は、やはりセラミックエンジンであるといえよう。セラミックスの脆性や信頼性の不足になお数多の問題をかかえながらも、セラミックエンジンはその第二世代（グローブラグやターボチャージャのセラミック化）を終り、第二世代の開発途上にあるといえる。ここではピストン等のセラミック化が実現する。更に第三世代ともなれば「ターボコンパウンド断熱ディーゼル」へと発展し、そのエネルギー効率の三十%アップが期待される。高効率ガスタービンもこの目標内にある。

これらのエンジンには窒化ケイ素、炭化ケイ素等が用いられる。この材料の五百℃以上における機械的強度は金属材料に比べて大変高い。しかしいずれも難焼結性であって、焼結促進のための助剤が加えられる。そしてこの焼結助剤の種類と量が製品の性能と密接な関連をもち、それらが重要な技術課題となっている。

セラミックスの脆性を克服する興味ある試みの一つに「部分安定化ジルコニア」がある。元来ジルコニアは千℃近辺に結晶形の変態点があり、約七%の体積変化を伴う。カルシアを添加すれば低温でも高温型結晶形が安定に存在するようになり、耐火炉材や酸素センサー等に利用されている（安定化ジルコニア）。一方、このジルコニアに数%のマグネシア、イットリアを加えると、変態可能な正方晶形のジルコニアが残って、いわゆる「部分安定化ジルコニア」ができる。そしてこれにストレスがかかると、正方晶→単斜晶の転移が生じ、その体積変化等によってストレスを吸収し、クラックの進展を妨害する効果が発生する。つまりセラミック材料に「靱性」が付与されたことになる。これが刃物やハサミとして既に市場に出ている高級性セラミックスの性能の根拠である。

これらの構造材料としてのファインセラミックスの研究開発はすさまじいばかりの勢いである。

光通信に活躍するガラスファイバー

ファインセラミックスの重要な材料の一つに光通信用石英ガラスファイバーがある。最近のINS（高度情報通信システム）や、CATVなど通信のニューメディアとして、銅線を用いる電気通信システムに代ってガラスファイバーを用いる光通信システムが登場して来た。この一大通信革命を支えたものに、発光ダイオードなどの光—電気変換素子の開発と、低損失ガラスファイバーの開発があげられる。現在世界一低損失であるといわれている我が国電気通信研究所開発の石英ガラスファイバーは、その損失が0.2dB/km（波長一・五五μの光に対して）に達し、ほぼその理論的限界値にある。通常の窓ガラスの厚さ二十cmで入射光の一%しか透過しない事実と比べると、このファイバーの一km先でも九十五・五%の光を透過するという特性はまさに驚異的といえよう。これは、十分に精製された四塩化ケイ素を酸水素バーナーで加熱分解する一種の「気相合成法」によって作られる。このような暫新な製法もファインセラミックスの一つの特長ということができる。ガラスファイバーの低損失化は今も進められており、フッ化物ガラスによる10^{-3}dB/kmの低損失を目指して研究開発が行われている。これが完成すれば地球一周にも中継器

株式会社 中央 広告代理店
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・スライド
ムービー・屋外・印刷・広告取扱
● 〒530 大阪市北区鶴野町1番3号(安田ビル402号)
☎ 大阪(06)373-3948～9
代表取締役 川島 康弘(28年卒)

残暑お見舞申し上げます
60年立秋
立命館大学理工学部
有機合成化学研究室
岡本勇三
Tel (内線)3643

をほとんど必要としない程の高性能化が期待されるという。また偏波面保存ファイバーの研究開発も興味深い。

機能性セラミックスも有望

その他、いろいろな機能をもった無機材料が、その特性の活用を待っているが、例えば既に自動車に使われている機能性セラミックスを拾ってみても、酸素センサー（安定化ジルコニア）、ノッキングセンサーや電子ブザー（PZT）、各種温度センサーや過電流保護素子（NTCサーミスタ）、コンデンサー（チタン酸バリウム）等その枚挙にいとまのない程である。各種セラミックスのもつ熱的、機械的、電磁気的、光学的、生物・化学的機能は、その用途開発を含めた研究が今まさに始まったばかりであるといえる。中でも既に年商百億円を越える酸化亜鉛バリスターは、機能性セラミックスの応用の典型としてあげることができる。バリスターはある大きさの電圧のかかるまではその絶縁性を保持するが、電圧がこのしきい値を越えると導体に変身する特長をもっている。これは、n型半導体の特性をもつ酸化亜鉛の結晶粒を精密にコントロールしながら、これにBi_2O_3やPr_6O_{11}などの微量添加剤を加えて作られる。添加剤は粒界に偏在して高抵抗相を形成し、電圧—電流特性の非直線化に寄与している。バリスターは異常電圧保護素子として多用されているが、これが我が国で見出されてまだ十数年にしかならない。したがって、例えばその導電機構の解明もまだ十分ではないが、実用化はどんどん進行している。このようにエレクトロニクスの分野でのファインセラミックスの活躍舞台は、まだ未知で無限の広がりをもつということができよう。

このような情報・エレクトロニクス、バイオ産業、エネルギー・原子力、航空・宇宙、海洋開発といった各種のハイテク分野において、ファインセラミック材料は、その高機能性や耐苛酷環境性などの特長を生かして、ますます発展するものと思われるが、それらの繁栄を支える地道な基礎研究、技術開発も当然のことながら重視されねばならないであろう。

（35年卒、現在通商産業省大阪工業技術試験所ガラス物性研究室長、工博）

樹脂，ゴム用発泡剤のことなら
永和化成工業株式会社
代表取締役社長　吉田　巌（化学科27年卒）
本　社：京都市南区吉祥院池田南町　Tel 075-691-5131㈹
連絡先：林　輝夫（31年卒）本社新製品開発部長
荒木正人（54年卒）本社新製品開発部主任

京染着物，京染夜具
正絹，化合繊の染色加工一般
西田染工株式会社
本　社：京都市南区東九条北松ノ木町33
TEL０７５—６８１—５５３６
連絡先：西田庄三郎（40年卒）
中小路宗次（40年卒）

●ベンゾトリアゾール系　紫外線吸収剤．防錆剤
●リン系　酸化防止剤．極圧向上剤…●各種触媒
JCIC 城北化学工業株式会社
本　社：東京都中央区日本橋茅場町1-6-12
連絡先：大田雄三(27年卒)本社，代表取締役社長　03-667-0701
戸谷順三(39年卒)〃　企画部長　〃
関谷晴彦(44年卒)〃　営業課長　〃
山内敏行(48年卒)〃　開発課長　〃
三谷英之(50年卒)〃　営業課長代理　〃
長村喜功(51年卒)〃　営業係長　〃
大道益雄(38年卒)戸田工場，工場長　0484-41-5137
杉井直行(43年卒)いわき工場，研究次長　0246-65-7111
梶浦輝雄(52年卒)大阪営業所，営業係長　06-262-0485

「パーソナル広告」について

同窓会ニュース第三号の発行を機会に、内容・形態を刷新すると共に、会員各位の情報交換をより密接にすべく「パーソナル広告欄」を新設しました。

「パーソナル広告」とは、会員各位の日頃のお仕事を通して、①自分の所ではこんな商品・製品を扱っています。②この様な技術相談に応じます。③この様な面白いことをやっています。④仲間を探しています。など、〝知らせたい〟、〝知ってもらいたい〟内容の告知板と考えております。

本号に掲載されています広告は、この主旨にそってご応募いただいたものです。今回は、編集の都合上、全会員に募集要項を配布できませんでしたが、次号から広く募集致しますので、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

〝おことわり〟

本号の掲載順序は、申し込み順です。

電化製品　電子製品　オーディオビデオＡＶ
ＣＤプレヤー　パソコンＯＡ　電子パーツ
ELECTRONIZE HIENDO
ヒエン堂
代表取締役　片岡繁典（29年，理工卒）
本　店　京都寺町綾小路南西角　☎ 361—0371㈹
北　店　京都寺町綾小路北西角　☎ 343—0121㈹
中　店　京都寺町通綾小路下ル　☎ 361—0377㈹
四条店　京都寺町・四条　☎ 351—2867㈹
山科店　京都山科竹鼻堂の前町　☎ 593—1277㈹

会員のページ

紙と共に

松本勝次

昭和二十三年卒業後、「紙は生活の必需品」、「紙は文化のバロメーター」とはやされて、紙業界のなかでも歴史のある多少特異な中堅の製紙メーカーに就職。あっという間に三十五年間が過ぎて定年を迎え、今は関係会社にあって紙化工分野でユニークな紙造りなどに取り組んでいる小生である。

日本の製紙業界は、終戦後間もない物資の少ない時代の紙から豊富に高度成長した現在の紙に至る間、拡大基調のうちに推移してきたというものの、裏では非常な開発競争が展開されており、そのおかげで、当社グループでも一般に余り知られていないユニークなものが数多く誕生している。

ここではいちいちご紹介は出来ないが、ご照会ご質問があればご要望にできるだけお答えするつもりでいるのでよろしくお願いしたい。

長年色々な分野の方々ともおつきあいしてきたが、水や空気の存在の様に、紙というものが当り前になっていて紙についての原点が案外忘れられているように感じるので、紙の歴史と紙の定義みたいなものについて簡単にまとめてみた。

紙の歴史

紙の歴史をひもといてみると、後漢時代の西暦一〇五年頃葵倫という中国人が後漢四代の和帝に紙を造って献上したという記録、今一つは、近年になって一九三三年に中国の考古学者が、西暦九三～九五年頃の紙製の帳簿を発見していることから、紙の発明者は葵倫以前にいたことになる。

葵倫以前の紙は麻が原料であったが、葵倫は、樹皮、ぼろ布、木綿などを原料として用いたといわれている。彼が紙の発明者でないにしても、紙の開発に関しては、現在の基礎を築いた人物であることには間違いないようである。

こうして人間が造り出したものの中では、紙は極めてユニークな創造物の一つであり、その国の文化水準と相関して増加をたどってきた。

日本には朝鮮経由でその製法が伝えられて以来、時代の推移と共に発展し、紙業界を形成する大きな産業にまで成長したのである。

紙の定義

一言にしていうならば「植物繊維を抽出して叩解し、水中に分散させ、水の媒介により薄く、平らに絡み合わせて造ったもの」ということになり、原料である植物繊維の主成分は炭水化物の一種のセルロースである。

植物繊維でない合成繊維や無機繊維、動物繊維などを原料としたものは紙状体であっても、厳密には紙とは区別して扱われている。

セルロースは、$(C_6H_{10}O_5)_n$の化学式で表されるとおり、H_2Oを除いてしまうと炭素しか残らないし、セルロース分子には水酸基が沢山あるので、水や湿気の影響を非常に受けやすいが、この性質をうまく利用して紙は造られている。

たまたま印刷業者さんなどから「この紙はあばれて困る」とかいわれるのも、湿気や水分のなせる業である。従って、実際に使用される紙は、使途に応じて可成りの改質行為が施されており、それが一般にいう紙というものである。

その紙には、情報の媒体、包装容器資材、衛生化粧材、建材資材、教材資材、食品嗜好用、等に大別できるが、その用途に特性として他のものの方が適しているものも結構ある。何も紙でなくてもよいが、紙は比較的安いもの、間にあうから使うのだという場合が少くはない。本当に特性をいかし、これでなければというのは、トイレットペーパー位ではないだろうか。

くさい話になったが膨大な紙の種類の中にも、非常にユニークな紙も沢山あることを強調したい。

一例を附記して筆を置く。

(一) 水に速かに分散する紙
(二) 水には強くアルカリ液には、即分散する紙
(三) 表示機能を有する紙
(四) 電気を通す透明な紙
(五) 湿度をコントロールする重要文化材などの包装紙など…。

(23年卒・大阪化工㈱代表取締役常務)

界面活性剤，繊維用油剤，帯電限止剤，
難燃剤，樹脂エマルジョンの製造
吉村油化学㈱
本　社：豊中市豊南町南5丁目1番1号
TEL06-334-3331～8
連絡先：松田圭一(27年卒)研究担当取締役

技術者募集中　ご希望の方は下記までご連絡下さい
業種：発泡ポリエチレン製造・加工・販売
代表取締役社長は立命館大学
化学科同窓会会長　吉田 巌です。
イクノ三和化工㈱
本社・工場：兵庫県朝来郡生野町真弓373-66
TEL079679－4405㈹
連絡先：総務部長　中寺幸雄

金　銀　糸
真空蒸着製品
製造・販売・輸出
KOK 尾池工業株式会社
代表取締役　尾池耕三
本　社　京都市下京区仏光寺通西洞院西　電話(075)341-2151㈹
上鳥羽工場本館　京都市伏見区竹田向代町125　電話(075)691-4171㈹
上鳥羽工場　京都市南区上鳥羽北塔ノ本町34　電話(075)681-2321㈹
関連会社｜京都尾池産業㈱，尾池通産㈱〔貿易〕，東京・桐生・一宮・倉吉｜

内装用ソフト巾木，階段用スベリドメ，ビニコンN.S.P(金芯入)
その他，塩ビ軟質押出製品
NCC 日本化工株式会社
静岡市羽鳥1090　TEL0542－78－8101
連絡先：富田耕一（代表取締役社長）
原田義明（取締役業務部長）
静岡市内へのUターン求職者を待っています。

トピックス

重金属除去剤

城北化学工業株式会社
戸谷順造

日本では、現在需要電力の20%以上を原子力発電に頼っておりこの割合は今後益々増える傾向にあります。

原子力発電は、他の発電方式と較べ多くの長所を持っておりますが、多量の放射性廃棄物を発生することが一つの大きな欠点となっています。

原子力発電所では、原子炉内（高温高圧）を大量の水が循環しております。この循環水は、ステンレスを主とした炉内を循環しており鉄などをはじめとする微量の金属が溶出します。これらのうち特にコバルトが問題であり、このものは炉内で中性子によって放射化され半減期が五年もある放射性のコバルト60になります。鉄は、水酸化鉄を主体とする懸濁物質（原子力界では、クラッドと呼んでおります）で、またコバルトは、大部分がイオンの形で存在しており、これを低減することが原子炉では必須の条件となっております。別図でしめすように復水は、前置ロ過器を用いクラッドとコバルトが除去され復水脱塩器で残存する金属イオンなどが除かれていますが、現在はロ過助剤に粉末イオン交換樹脂が使用されており、使用済み廃棄物が多量に発生するためこの処理が大きな問題になっております。

このイオン交換樹脂に代る有望な助剤即ち放射性物質を有効に吸着し、しかも放射性廃棄物量が減量出来る助剤が開発出来れば、廃棄物貯蔵能力が増し世の中に貢献することになります。

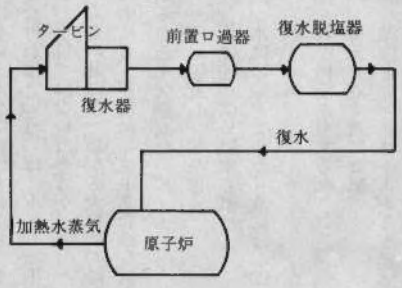
当社では、オキシンを用いる分析化学の権威者で元立命館大学助教授で、また元日本原子力研究所所長であられた本島健次博士のご指導の下、多くの重金属を捕捉し、また廃棄物を大幅に減容できる重金属除去剤（K－MAC）を開発しました。

K－MACを使用するならば、容易に焼却出来るので、使用済みの廃棄物量を現在の約1/30以下に減容することができます。

またK－MACは、原子力発電所内で発生する雑廃水の処理の他に、一般工業廃水中の貴金属類の回収に利用することができますので注目を集めております。

K－MACは、日本国内は勿論、米、仏、その他の外国でも検討に入っており、将来原子力発電に、貴金属の回収に無くてはならぬ商品に発展してゆくことでしょう。

最後に、商品名「K－MAC」は、健次(Kenji)・本島(Motojima)・活性炭（Activated Carbon）のイニシャルをとって付けさせて戴きました。



（39年卒・本社企画部長）

同窓会通信 —PARTII—

各事業の委員会の構成メンバー決る

昨年の第一回幹事会（昭和五十九年六月十日）で、各種事業を推進するための各委員会の設置が承認され、委員長の選出が行われました。その後、昨年十二月の第二回幹事会で、各委員会の構成メンバーが報告されました。

現在活躍中の各委員会の委員長、委員は次の方々です。

(1)セミナー等運営委員会

委員長：竹内良夫氏（25年卒）
委　員：岩崎弘通氏（27年卒）
岡本勇三氏（27年卒）
八木永治氏（28年卒）
藤村一美氏（32年卒）
近藤照雄氏（36年卒）
本荘秀一氏（50年卒）

(2)名簿作成委員会

委員長：岡本勇三氏（27年卒）
委　員：岩橋　清氏（23年卒）
西村敏次氏（24年卒）
宇野光造氏（25年卒）
香山彰朗氏（31年卒）
石田美野里氏（33年卒）
白石晴樹氏（47年卒）
西明和彦氏（在校生）

(3)同窓会ニュース編集委員会（庶務幹事担当）

委員長：岩橋　清氏（23年卒）
委　員：松田十四夫氏（38年卒）
谷口吉弘氏（40年卒）

架橋発泡ポリエチレン，圧縮熱成形品
菱和化工株式会社
代表取締役社長　吉田　巖（同窓会会長）
本社：茨城県石岡市柏原４－４
TEL　02992-3-6631
連絡先：笹川　隆（総務部長）

医薬のマルホ
東　正弘(41年卒)　濱名　信幸(52年卒)　藤井　亘(52年卒)
畠中　亮(53年卒)　金子　洋文(54年卒)　関口真之介(54年卒)
山田　和弘(54年卒)　米津　平生(54年卒)　藤井　正明(55年卒)
佐々木孝夫(56年卒)　山口　健輔(56年卒)　澤田　隆弘(57年卒)
川原崎芳彦(58年卒)　北河　敬裕(59年卒)　吉岡　秀樹(60年卒)
MARUHO マルホ株式会社
本社　大阪市大淀区中津１丁目６－24
TEL　06（371）8876（代）

技術優先にて
ファインケミカルの特殊分野を
切り拓く!!
互応化学工業株式会社
本　　社・京都府宇治市伊勢田町井尻58　TEL 0774(41)6143
北陸営業所・石川県小松市平面町カ83-1　TEL 0761(22)6195
当社では研究開発に熱意ある人材を求めています

同窓会通信—PART Ⅲ—

—幹事会—

去る七月七日(日)、午後二時より京都私学会館で昭和六十年度第一回幹事会が行われた。出席者は三十四名で委任状（三十五名）を含め幹事会成立を確認後、吉田会長を議長に選出し議事が進められた。

まず、前回幹事会（昭和五十九年十二月二日）の議事録の説明に続いて、会運営の経過報告が行われた。さらに、竹内セミナー等運営委員長、岡本名簿作成委員長、岩橋同窓会ニュース編集委員長から、各委員会での活動状況が報告された。

次に、松田庶務幹事より昭和五十九年度事業報告、山本会計幹事より昭和五十九年度決算報告、市川会計監査より監査報告が行われ、討議の後、それぞれ別記の通り承認された。

引き続き、昭和六十年度事業計画、昭和六十年度予算案が提案された。各種事業に関して、竹内、岡本、岩橋各委員長から補足説明が行われた後、討議の後、それぞれ別記の通り承認された。

なお、各種事業に関して承認された内容は次の通りである。

一、セミナー等に関して

①六月十五日に在校生を対象に講演会を行った。

②今秋に、第二回科学技術セミナーを計画する。

③科学技術セミナーの講演内容を、同窓会ニュースを通して、全会員に知らせる。

二、同窓会ニュースに関して、

①紙面を校友会ニュース方式に変更する。

②パーソナル広告を募集する。

③会員の情報交換の媒体となるよう、内容を充実する。

三、名簿作成に関して

①昭和六十一年六月完成を目標に準備作業を進める。

②編集内容は、前回に準ずる。

③年会費の完納者には無料で配布するよう計画する。

④原簿作成、校正作業の人件費として当面二十万円を特別事業会計に予算化する。

最後に、会運営に対しての会員への啓蒙活動をより強化してほしい旨の吉田会長からの要望が述べられ、午後五時前に終了した。

役員名簿

（敬称略）

職　門	氏　名	年度幹事
会長	本島　敏次（旧教員）	
副会長	杉田嘉一郎（旧教員）	
	長谷川忠男（専門1部22年卒）	
	尾島　新三（専門1部23年卒）	
	吉田　巌（専門1部25年卒）	
	津田　和夫（大学1部27年卒）	
	岡本　勇三（専門1部28年卒）	
庶務幹事	岩橋　清（専門1部25年、大学2部27年卒）	
	石原　遵（大学2部27年卒）	
	山田吉之介（専門1部23年、大学1部27年卒）	
	今達　祥治（専門1部24年卒）	
	東　龍夫（大学2部29年卒）	
	小林　亀造（大学1部33年卒）	
	松田十四夫（大学1部38年卒）	
	谷口　吉弘（大学1部40年卒）	
会計幹事	服部　定治（専門1部19年、大学2部34年卒）	
	野村柘三郎（専門1部20年卒）	
	佐々木右八（大学1部32年卒）	
	山本　善史（大学1部35年卒）	
	中村　尚武（大学1部41年卒）	
会計監査	福井　明（専門1部20年卒）	
	市川　延繁（大学2部28年卒）	
	今達　祥治（専門1部24年卒）	
	東　龍夫（大学2部29年卒）	
	小林　亀造（大学1部33年卒）	
	松田十四夫（大学1部38年卒）	
	谷口　吉弘（大学1部40年卒）	
	服部　定治（専門1部19年、大学2部34年卒）	
	野村柘三郎（専門1部20年卒）	
	佐々木右八（大学1部32年卒）	
	山本　善史（大学1部35年卒）	
	中村　尚武（大学1部41年卒）	
	福井　明（専門1部20年卒）	
	市川　延繁（大学2部28年卒）	

職　門	氏　名	年度幹事
専門学校（一部工科）	宇佐美博三	昭和18年卒
	服部　定治	19年卒
	野村柘三郎	20年卒
	清水　保孝	22年卒
	岩橋　清	23年卒
	志多野義夫	24年卒
	石原　遵	25年卒
	山田吉之介	26年卒
（一部理科）	山田　益三	昭和20年卒
	福嶋　幸司	22年卒
	西村　敏次	23年卒
	竹内　良夫	24年卒
	永治	25年卒
	悦	26年卒
短期大学	九鬼　敏隆	26年卒
昭和27年卒	梅　年雄	28年卒
28年卒	岡田　克巳	
新制大学（二部化学科）	宇野　光遠	昭和27年卒
	八木　永治	28年卒
	九鬼　敏雄	
	東　鶴夫	29年卒
	亀田　宏章	30年卒
	伊藤　幾紹	31年卒
	清水　博	32年卒
	石田英野里	33年卒
	上原　正巳	34年卒
	寺井　良平	35年卒
	山本　好春	36年卒
	三戸　清州	37年卒
	幕井　博	38年卒
	山本　修三	39年卒
	梶田　晋司	40年卒
	天田　健治	41年卒
	加納　修	42年卒
	三宅　宏和	47年卒
（一部化学科）		48年卒

（なお、空欄の年度幹事は現在までに未選出です。敬称は略させていただきました）

職　門	氏　名	年度幹事
会長	吉田　巌（専門1部25年、大学1部27年卒）	
副会長	津田　和夫（大学1部28年卒）	
	岡本　勇三（専門1部25年、大学2部27年卒）	
庶務幹事	岩橋　清（専門1部23年、大学1部27年卒）	
	石原　遵（大学2部27年卒）	
	山田吉之介（専門1部23年、大学1部27年卒）	
	今達　祥治（専門1部24年卒）	
	東　龍夫（大学2部29年卒）	
	小林　亀造（大学1部33年卒）	
	松田十四夫（大学1部38年卒）	
	谷口　吉弘（大学1部40年卒）	
会計幹事	服部　定治（専門1部19年、大学2部34年卒）	
	野村柘三郎（専門1部20年卒）	
	佐々木右八（大学1部32年卒）	
	山本　善史（大学1部35年卒）	
	中村　尚武（大学1部41年卒）	
会計監査

事務局より 会員の皆様へ

年会費等の納入についてのお願い

一、年会費納入について

昭和六十年度分（六十一年三月三十一日迄）会費 二千円を納入下さいますようお願い申し上げます。

年会費は、会運営の柱です。全会員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。

なお、五十八年度、五十九年度分の会費が未納の方は、三年度分の会費の納入にご協力下さい。次回の名簿発行（昭和六十一年六月頃に発行予定）の際には、年会費の納入実績に応じて販売・配布することも計画しております。特に、年会費完納（五十八、五十九、六十年度の三年度分）の方には、名簿を無料配布の予定ですので、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

ご送金には同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収証は、郵便局の発行する受領証をもって代えさせていただきます。

（注：昭和六十年三月卒の一部の会員は、六十年度分会費を納入済です。）

二、寄付金募金について

会運営を円滑に行うために、運営資金の一部として、寄付金を募っております。寄付金は、特別事業費に繰り入れ名簿発行等を円滑に行なえるよう計画しております。

本年度の目標額は六十万円です。皆様方の積極的なご協力をお願い申し上げます。

寄付金は一口 二千円とし、何口でも承っております。ご送金の際は、同封の振替用紙をご利用下さると便利です。

三、名簿販売について

先にご案内致しましたように、昭和五十八年五月、「立命館大学化学科同窓会会員名簿」を発行致しました。すでに多数の方々にご購入いただきましたが残部が少々ございます。申込順に販売いたしておりますので、ご希望の方は早い目にお申込下さい。

尚、名簿代は送料含みで、一冊千円でございます。同封振替用紙をご利用の上、お申し込み下さい。

四、年会費の納入状況について

会員各位の年会費の納入状況を全会員にお知らせすることは、現在の事務局の能力から、できないことを深くおわび申し上げます。但し、個人的な問い合わせには応じられますので、ハガキ又はTELでご連絡下さい。連絡先は、事務局（内線三六四五）です。

名簿発行に伴う現住所等の確認について

次年度（昭和六十一年六月頃）に全会員の名簿の発行を計画中であり、現在、会員各位の現住所・勤務先等の確認作業を進めております。

つきましては、お手数とは思いますが、各位の現住所・勤務先等を同封のハガキにてご一報下さいますようお願い申し上げます。すでに、現住所等の変更届を提出済の方も、お手数ながら改めてご連絡下さいますようお願い申し上げます。

名簿には、次の卒業生の方々を掲載致します。

○立命館大学専門学部工学科応用化学科
○立命館大学専門学校工学科化学工業科
○立命館大学専門学校理学科化学科
○立命館大学短期大学部工科応用化学専攻
○立命館大学理工学部化学科

なお、名簿の販売・配布方針は、三ヶ年度分（五十八、五十九、六十年度分）の年会費を完納の方々には、無料配布の予定ですので、会費納入につきましてもご協力下さいますようお願い申し上げます。

追伸：八月中に、全会員必ずご返送下さい。なお、四十円切手を貼って投函下さいますようお願い申し上げます。

"同窓会ニュース用原稿及びパーソナル広告"募集について

本号の発行を機会に、同窓会ニュースの内容・形態の刷新し、今後は、本号の編集内容を基本とします。

次号（昭和六十一年七月発行予定、発行部数約六千部）の原稿を次の要領で募集しますので、ご協力をお願いします。

一、「会員のページ」、「トピックス」欄の原稿募集
①一件 千二百字程度
②「会員のページ」欄は、随想、提案のような内容、「トピックス」欄は、製品・技術紹介的な内容を求めます。
③募集〆切は、六十一年七月上旬、なお、事前に事務局にご連絡下さい。

二、「パーソナル広告」の募集
①大きさ：一件につき巾約7・5cm、縦4・5cmの長方形
②内容・形式：自由（本号の記載例を参考にして下さい。）
③字体：指定可。但し、指定書体・マークがあれば同封下さい。
④広告代：一件一万円、但し、支払いは個人・企業別を問いません。

上記の原稿・広告案文の一、送付先及び連絡先：立命館大学化学科同窓会事務局宛
内線：谷口吉弘（三六三二）
松田十四夫（三六四一）
事務局（三六四五）

二、〆切：昭和六十一年七月上旬

"第二回講演会"開催さる

昨年六月に行われた第一回講演会に引き続き、在校生の就職活動期に合わせた第二回講演会が、昭和六十年五月十五日(水)午時一時半から、約70名の参加のもとに二号館二階の理工学部会議室で開催された。

一、企業における研究・開発の現状と展望
近藤繁雄氏（38年卒・松下電器産業㈱・中央研究所・主任研究員・工博）

二、メーカーにおける営業活動の現状と展望
三上正勝氏（37年卒・互応化学工業㈱・常務取締役）

編集後記

〝会員を引き付け、魅力ある同窓会ニュースを〟の岩橋編集委員長の方針にそって編集しました。会員相互の情報源として役立つよう願っております。今回企画しました、「パーソナル広告」には、多数の会員の皆様からご協力いただき、一同感激している次第です。今後も、「会員のための同窓会ニュース」となるよう努力したいと考えておりますので、ご助言、ご支援をお願い致します。